# Rohm Music Friends

## ローム ミュージック フレンズ

2022.3 | No.13

— ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌 —

パーヴェル・フェドートフ「Portrait of Nadezhda P. Zhdanovich at the Piano」1849年
© Bridgeman Images /amanaimages

ローム ミュージック ファンデーションは
音楽を通して
豊かな文化をつくることを
目指しています。

# Rohm Music Friends

No.13
2022.3

## 目次


P03　活躍する奨学生 インタビュー
P07　Ken Sato Memorial Concert
P13　ローム ミュージック チャンネル
P15　ロームクラシックスペシャル
　　コバケンワールド Vol.29
　　新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室2021
P17　ローム ミュージック フレンズからのお便り
P21　奨学生レポート
P25　ロームシアター京都　ミュージックサロン
P28　動画企画のご紹介
P29　奨学生一覧


**「ローム ミュージック フレンズ」とは**

1991年の創立時以来、若い音楽家育成のためのさまざまな事業で関わった音楽家。
2022年2月現在　計4,650人
※複数の事業で関わった音楽家がいるため、各事業の人数合計とは一致しない。

| | | |
|---|---|---|
| 奨学生 | 国内外の教育機関で音楽を学ぶ学生への奨学金の給付。 | 507人 |
| 音楽在外研究生 | 音楽家の一層の研鑽をはかるための在外研究を援助。 | 64人 |
| ミュージックセミナー受講生 | ローム ミュージック フレンズが講師となり、<br>世界を舞台に活躍する音楽家の育成を目的としたセミナー。 | 7人 |
| 音楽セミナー受講生 | プロの音楽家の育成を目的としたセミナー。<br>現在までに弦楽器クラス、管楽器クラス、指揮者クラスを実施。 | 333人 |
| 京都・国際音楽学生フェスティバル出演者 | 国際交流と音楽家の育成を目的として、世界を代表する音楽学校から<br>音楽学生を京都に招いて開催するフェスティバル。 | 2,625人 |
| 小澤征爾音楽塾 塾生 | オペラやオーケストラを通じて若手音楽家を育成するプロジェクト。 | 1,363人 |

# 活躍する奨学生インタビュー

VOL.13

*Ayana Tsuji*

**辻 彩奈** [ヴァイオリン]

2015、2016年度奨学生

給付時の在籍学校:
東京音楽大学

© Makoto Kamiya

Profile

1997年岐阜県生まれ。東京音楽大学卒業。2016年モントリオール国際音楽コンクール第1位。モントリオール響、スイス・ロマンド管、N響、読響、都響、東京フィル、名古屋フィル、大阪フィルなど多くの国内外のオーケストラと共演している。2018年「第28回出光音楽賞」を受賞。これまでに小林健次、矢口十詩子、中澤きみ子、小栗まち絵、原田幸一郎、レジス・パスキエの各氏に師事。2019年、スイス・ロマンド管とジュネーブおよび日本にてツアーを実施し、その艶やかな音色と表現によって各方面から高い評価を得た。現在、東京音楽大学アーティストディプロマに特別特待奨学生として在籍中。使用楽器は、NPO法人イエローエンジェルより貸与のJoannes Baptista Guadagnini 1748である。

**―音楽と出会われたきっかけ、ヴァイオリンを始められたきっかけは。**

3歳からスズキ・メソード（才能教育研究会）にてヴァイオリンを始めました。父が同じく3歳からスズキ・メソードにてヴァイオリンを始めていたため、昔使用していた分数楽器が家にあり、その楽器に興味を持ったことがきっかけです。

**―その後、小学生のときに全日本学生音楽コンクールで優勝され、高校生のときに日本音楽コンクールで2位を受賞されましたが、いつプロのヴァイオリニストとして活動していこうと思われたのでしょうか。**

小さなころ、テレビでプロのヴァイオリニストの映像を見ていると、純粋に「すごいなぁ」と感じていたのですが、そのころは自身がプロの音楽家として活動する想像はゼロでした。小学校4年生で小林健次先生に習うために東京に通うようになり、小学校5年生のとき全日本学生音楽コンクール名古屋大会で優勝し、意気揚々と全国大会に挑んでみたのですが、全国大会では入賞すらもできなくて…。そのとき「同年代にこんなにレベルの高い人たちがたくさんいて、こんなにも頑張っている人がたくさんいるんだなぁ」と衝撃を受けたと同時に、すごく悔しい想いをしました。もう一度頑張って絶対優勝したいと誓い、必死に練習して次の年に優勝することができました。その優勝を機に、演奏会への出演依頼をいただくことが増え、お客様の前で演奏していくにつれて、「あ、自分はこういう職業、ヴァイオリニストになりたいな」と、じんわりと思い始めたのです。

©Tatsuo Sasaki

左／2017年スカラシップコンサートでの演奏
下／モントリオール国際音楽コンクールで優勝

**―その後、2015年、16年度の奨学生として学ばれました。同時期にモントリオール国際音楽コンクールで優勝されたかと思いますが、コンクールのことも含め奨学生時代の印象深い出来事を教えてください。**

高校2年生から大学1年生の春までの期間に、海外の国際コンクールを4つ受けたのですが、ファイナルには進むことができてもなかなか優勝できないという時期が続きました。ひたすら、目の前のコンクールに向かって必死になって、コンクールが終わったら、すぐに次のコンクールの概要を調べて、応募して、準備して、練習してみたいなことを、ずっとやっていました。今思うとその2年間は一番壮絶な時期でしたね…。モントリオール国際音楽コンクールで優勝できたときは、ホッとして嬉しかったというよりも、発表の仕方が独特過ぎて、全然実感が湧かなかったという不思議な経験でした。他の国際コンクールだと、ファイナルが終わったらすぐ結果が出ることが多いのですが、モントリオールではファイナルを演奏した後はそのままホストファミリーの家に帰って、2日後、結果を知らないにも関わらず、審査員の先生方とファイナリスト6名が集められてロブスターをお腹いっぱい食べるパーティに参加しました。そのパーティの帰り道、ファイナリストのうち、上位3位までのグループと、それ以外の3名のグループが乗車する車がいつの間にか振り分けられていて、降車時にガラコンサートのリハーサル時間を別々に伝えられたのです。そのとき、「あなたはコンチェルト全曲弾けるからね。」と言われました。ガラコンサートでコンチェルトを全曲弾けるのは優勝した人だけという事前説明は受けていたので、「え？私なの？？」みたいな想いになりました。でもそれ以上の詳しい説明は無かったので、半信半疑の気持ちでリハーサル会場に向かったら、モントリオール交響楽団の皆さんに「おめでとう！！！」と盛大な祝福を受けて、ようやく「あ、本当に優勝できたんだーー。」って思いました（笑）。日本に帰って来てからも、大勢の方に「おめでとう！！！」と言われて、やっと実感が湧いてホッとしたことを覚えています。

左／東京音楽大学付属高校のコンサート、藤田真央さんと

**── モントリオール国際音楽コンクールのファイナルで弾いたシベリウスのコンチェルトは、その後CDも出されましたね。**

そのころ、国際コンクールのファイナルでは、ずっとシベリウスのコンチェルトを弾いていました。もともとすごく好きな作品でしたし、しっかり手のうちに入った作品で勝負したいと強く思っていたからです。でも、外国人の年上のファイナリストたちは、ショスタコーヴィチとか、コルンゴルドとか私が弾いたことも無い技術的にとても難しいコンチェルトをたくさん弾いていて、毎回、優勝する人はそういう曲の選択をしていました。今思えばたまたまだったのですが…。当時は、モントリオールでシベリウスを弾いて優勝できなかったら、シベリウスを弾くことはしばらくやめて、技巧的な作品に取り組もうって思っていました。無事に優勝することができたので、まだシベリウスを弾くことができて良かったです（笑）2018年、ワーナークラシックからリリースされたCDは、モントリオールのファイナルの模様を録音したものです。

**── 奨学生期間中はスカラシップコンサートや、認定式・報告会・懇親会に出席されました。**

ロームの報告会で初めてお会いした方とは、のちのち共演する機会があったり、偶然演奏会でばったり会ったり、毎々出会いの場だったと感じています。それこそピアノや弦楽器の方とは以前から顔見知りだったりしますが、オルガンや声楽の方々とは普段の接点がほぼありません。なので、すごく新鮮な気持ちでした。音楽学の方は、全然自分と違うジャンルだけど、ああいう音楽との関わり方があるという事実を学びました。多種多様なお話が聞けて、すごく楽しかったですね。

**── 奨学生時代は東京音楽大学に在籍されていましたが、その後パリに留学されました。留学先としてパリを選ばれた理由はなんだったのでしょうか。**

2010年から8年間、<いしかわミュージックアカデミー>というサマーアカデミーに通っていました。そこでレジス・パスキエ先生と出会いました。パスキエ先生は、受講生それぞれに合わせた指導をしてくださります。音楽の引き出しや表現方法について、巧みな言葉の選択で千差万別の教え方をされていて、「ああ、こういう指導をされるパスキエ先生のもとで勉強したいな」という想いが強くなったので、留学先はパリを選択しました。

**── 2020年ごろからは、新型コロナウイルス感染症の影響から外国人奏者の代役でのご出演などがあり、新しいレパートリーに挑戦されているイメージがあります。**

モントリオール国際コンクールで優勝して、プロの音楽家としての演奏活動を始めたころは、コンクールのために同じ曲ばかりを練習していたので、本当に少ないレパートリーしかありませんでした。ですから、オファーをいただいても弾けるのはメンデルスゾーンとチャイコフスキーばかり。たまに、シベリウスとブルッフの依頼が来るくらいだったと記憶しています。ただ自分を変えていくためにも、2019年の途中から、プロコフィエフやシマノフスキなどの新しいレパートリーを増やす活動を意識的にしていました。その矢先に、新型コロナウイルスの猛威が訪れたのです。政府の入国制限措置により外国人の音楽家が来日できなくなったとき、オーケストラの事務局としては予定していた演奏会の曲目を変更せずに開催することをまず希望なさいます。その代役として、私の名前を候補として出してくださることが、いつもすごくありがたいと思っています。20代前半の私に対して心配も多々あると思いますが、彼女に任せてみようと期待をかけてくださるのがありがたいですし、その期待にこたえるべく頑張らなきゃ！と思って挑戦し続けています。

上／2016年ロームミュージックファンデーション奨学生報告会にて関係者と

代役のお話は大体1ヵ月前に正式な依頼をいただき、そこから必死にさらってモノにしなければならない。以前よりも短期集中で仕上げる力が付いたかなと感じています。本当にレパートリーは増えたなと実感しています。

**── コンチェルト以外も、新しい作品に今後は取り組んでいかれるのでしょうか。**

2022年は、リサイタルを意欲的に取り組んでいきたいと考えています。近年、ようやくリサイタルのお声をかけていただけることが増えて、それは自分でもすごく成長したなと実感できる瞬間です。昨年より同世代のピアニストとご一緒する機会が増えたので、リハーサルの時点から「ここはこうしたほうがいい、ああしたほうがいい」って、一緒に音楽をつくり上げていく感覚にすごく喜びを感じるようになりました。2022年7月に同じくローム ミュージック ファンデーションの奨学生である阪田知樹さんと一緒にリサイタルツアー（全国10公演）を実施します。彼とは何度も意見交換をしながら、一緒にプログラムを考えました。リサイタルのレパートリーは、コンチェルトよりもさらに自分で取り組んでいかないと積み重ねができないと思うので、2022年の目標は「リサイタルのレパートリーを増やす」ですね！

**── そういった先に、将来こういうヴァイオリニストになりたいという目標があれば教えてください。**

今までは、「自分の音」「自分の表現」みたいなものを確立したいなあと思って勉強してきました。経験を積むなかで、自分自身にとって得意なものとか、自分らしさが出るものであるとかが、少しずつ客観視できるようになってきたと思います。辻さんの音楽良かったなって、もちろんそう思っていただきたいのですけれど、来場していただいたお客様に、「ああ、この作品に出会えてよかったな」とか「すごくいい曲だったな」という想いを抱いてもらえる演奏を心掛けたいなといつも思っています。

**─2022年4月にご出演されるローム ミュージック フェスティバルについて一言いただけますでしょうか。**

ローム ミュージック フェスティバルは、素晴らしい活躍をなさっている先輩方が一堂に会していていつも華やかだなという印象があります。いつか出演してみたいなと思っていたので、今回、初めて出演できることになりすごく嬉しいです。同世代の音楽家、特にヴァイオリニスト4人が同じ舞台に立つ演奏会はほぼ経験したことが無いので、それぞれの音だったり個性だったり、同じクライスラーでも全然違う音が出てくると思いますし、その違いを楽しんでいただけたらと思います。私もとても楽しみにしています。

**── 最後にヴァイオリニストを目指して頑張っている方々、音楽家を目指して頑張っている方々にメッセージをお願いします。**

あきらめないことが大切だと思います。音楽家だけでなく、プロのスポーツ選手も同じことだと思いますが、輝かしい世界に到達するまでにはつらい積み重ねがたくさんあります。プロの音楽家として活動してからもつらいことはあるけれど、それを乗り越えたときの喜びは掛け替えの無いものがあります！頑張っていたら絶対誰かは見てくれているので、とにかくあきらめないでほしいです。

© Ayumi Kakamu

Vol.1

# Ken Sato Memorial Concert

## 仲道郁代

### ～オール ショパン プログラム～

ローム株式会社の創業者であり、ローム ミュージック ファンデーションを設立した
佐藤研一郎（1931年～2020年）は、自身の愛する音楽を通じて社会に貢献するため、
私財を投じ数多くの音楽文化支援活動を行ってきました。
Ken Sato Memorial Concertは、故人の意志、音楽への想いを末永く紡いでいくために
新たにスタートした、世界で活躍する一流の音楽家によるコンサートです。
記念すべき第1回目は、国内外で活躍されるピアニスト 仲道郁代さんをお迎えし、
ロームシアター京都サウスホールにて2022年1月15日に開催されました。



## 佐藤研一郎と音楽

半導体、総合電子部品メーカーであるローム株式会社の創業者、佐藤研一郎は、ヴァイオリニストの父を持ち幼いころから音楽に親しみ自然に音楽を志すようになりました。ピアニストになる夢を持ち続け研鑽を積んでいましたが、コンクールで思うような結果を出せず、その夢を諦めた佐藤研一郎は、ラジオ修理のアルバイトから興味を持った抵抗器の研究に没頭するようになります。そして自宅の風呂場で開発した「平行リード型固定抵抗器」の実用新案を基に、1958年に東洋電具製作所（ローム株式会社の前身）を創立し、音楽とは異なる道を歩みはじめました。

会社を成長させる一方で、音楽を愛する気持ちを持ち続けた佐藤研一郎は、「音楽文化の支援活動」でその想いを形にしていきます。1965年『目で見る音楽史』出版にはじまるさまざまな音楽文化支援活動を行い、1991年にこれらの活動を継続的かつ安定的に実施するために佐藤研一郎とローム株式会社が中心となって、音楽文化支援を行う『財団法人ローム　ミュージック　ファンデーション』（現在は「公益財団法人」）を設立しました。

ローム　ミュージック　ファンデーションの理事長として、音楽文化の普及と発展のためにさまざまな事業を行いましたが、特に若い音楽家の支援に力を入れていました。それは、自身が、「音楽家になることの苦労」を一番理解していたからでした。同時に、「音楽っていうのは、一人だけで上手に弾けるようになるわけじゃない。チケットを買って聴きに来てくれる人がいるから、舞台で弾こうって気にもなる。支援の目的として聴衆の輪を広げるのも大事なこと。」と、多くの人に音楽を親しんでもらいたいとも願っていました。その想いはいつまでも色褪せることなく、ローム ミュージック ファンデーションの理念に受け継がれ、現在も多くの音楽家への支援、そして音楽を親しんでいただく機会を増やすことにつながっています。

情報誌『ロームミュージックフレンズ』No.2、No.3に、
佐藤研一郎と小澤征良氏との対談を掲載しています。
佐藤の音楽への思いなど是非ご覧ください。

こちらのURLからご覧いただけます

No.2　No.3

# Ken Sato Memorial Concert

当日のプログラムは、聴きなじみのある名曲を集めたオール・ショパン・プログラム。仲道郁代さんは、涙を誘う名演とともに、ショパンの人生や思いに触れながら演奏曲を解説してくださいました。

## ～第1部～

幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66
ノクターン 第2番 変ホ長調 作品9-2
幻想曲 ヘ短調 作品49
練習曲 第12番 ハ短調「革命」作品10-12
練習曲 第3番 ホ長調「別れの曲」作品10-3
バラード 第1番 ト短調 作品23

## ～第2部～

ノクターン 第13番 ハ短調 作品48-1
ノクターン 第14番 嬰ヘ短調 作品48-2
ワルツ 第6番 変ニ長調「小犬のワルツ」作品64-1
ワルツ 第7番 嬰ハ短調 作品64-2
ノクターン 第20番 嬰ハ短調（遺作）
「レント・コン・グラン・エスプレシオーネ」
ポロネーズ 第6番 変イ長調「英雄」作品53

© Tatsuo Sasaki

会場はバラやスイートピーなどで装飾され、花の香り溢れるなかでの演奏会となり、お帰りの際にはご来場いただいた皆様にその花をお持ち帰りいただき、盛況のうちに終えることができました。

<パネル展示「佐藤研一郎と音楽」の様子>

「お客様にお喜びいただけること」に重きを置いていた佐藤の想いのもと、次回も花で彩り豊かに飾られたロームシアター京都で一流の音楽家の演奏をお客様にお届けいたします。

© Kiyotaka Saito

### 仲道郁代 *Ikuyo Nakamichi*

第51回日本音楽コンクール第1位、ジュネーヴ国際音楽コンクール最高位、エリザベート王妃国際音楽コンクール入賞。ピッツバーグ響、バイエルン放送響、フィルハーモニア管、ドイツ・カンマーフィル等、海外のオーケストラと共演多数。CDはレコード・アカデミー賞受賞を含む「仲道郁代ベートーヴェン集成～ピアノ・ソナタ&協奏曲全集」「ドビュッシーの見たもの」他。著書に『ピアニストはおもしろい』（春秋社）他。ベートーヴェン没後200周年の2027年に向けて「仲道郁代The Road to 2027プロジェクト」リサイタルシリーズを展開中。一般社団法人音楽がヒラク未来代表理事、一般財団法人地域創造理事、桐朋学園大学教授、大阪音楽大学特任教授。令和3年度文化庁長官表彰受賞、ならびに文化庁芸術祭「大賞」を受賞。

インタビュー

# ～Ken Sato Memorial Concert に寄せて～

Ken Sato Memorial Concertに出演されたピアニストの仲道郁代さん。ショパンへの思い、今回のコンサートへの思い、ご自身の活動のことなど、さまざまなことをコンサートの前日にうかがってきました。

**―京都という地に来られて、コンサートに向けてのお気持ちを改めてお聞かせください。**

佐藤さんの思いを引き継いでこのコンサートシリーズをこれから続けていかれるというご決意をうかがって、本当に大切な第一歩の役目をさせていただくのだなあと、感じ入っています。音楽で人を喜ばせたいという佐藤さんの思いをこれから体現なさってゆく、その一歩目に私もご一緒させていただけることをとても嬉しく思います。

**―そういった思いで臨まれる今回のコンサートは、オールショパンのプログラムとなっていますね。**

ショパンはピアノという楽器の良さを一番引き出してくれる作曲家なんです。佐藤さんが、もともとピアノの道を目指していらしたというお話もうかがいまして、きっとピアノの音というものをお好きでいらしたんだろうなと思いました。ショパン自身が若いころ、ふるさとを離れてから一度も戻れなかったというなかで曲を書いていますから、音を通して私たちに郷愁という心持ちを呼び起させてくれるようなところが、ショパンの作品には感じられます。ふるさとへの気持ちのように、すごく大切なものだけれども日々の生活のなかでは忘れてしまいがちな感情、それをピアノの音とともに改めて味わっていただけたらと思います。私が音楽のなかに見いだす世界観というのがあって、心のなかの大切なもの、手を胸に当てて、「ああ、そうだよね」と思わせてくれるところが音楽にはあります。今こういったコロナ禍で、何とも言えない不安のなかにいるわけですが、そんななかでも、一歩一歩前に進んでいかなければならないという思いに、ショパンは寄り添ってくれますし、今とても弾きたい作曲家でもあります。

ピアノの音は、発音した瞬間から消えゆくのみなんです。はかないですよね。はかないことは、美しいことに繋がると思うんです。ショパンのなかのそのはかなさを、メロディやハーモニーで重ねていったときに、はかなさのその先にある世界をのぞかせてくれるところがあると思います。

**―ショパンの作品は言葉をあまり介さない音楽だと著書で述べられています。そのあたりも含めショパンの魅力を教えていただけますか。**

ショパンは音の純粋性を信じていたのだと思います。ショパンの場合は概念ではなくて、やっぱり感情です。感情を扱うのがロマン派なのでそういった意味ではロマン派なんだけれども、言葉を排除していたという意味では、同時代のシューマンと大きく異なる。今回「バラード」の1番を弾きますけれど、バラード自体ね、物語という意味なんです。ショパンがインスピレーションを得た可能性が指摘されている、古くからポーランドに伝わる物語があります。でも、その物語の筋書きを表現するために書いたのではなくて、その物語から受けるさまざまな感情であったり、空気感であったり、呼び起される感興を純粋に音で構築したということなんじゃないかなと考えています。

**―仲道さんのご自宅にはショパンの時代の「プレイエル・ピアノ」があるそうですね。**

はい、1842年製のものがあります。やはりオリジナル楽器に触れるようになってから、楽譜の見え方が変わってきました。プレイエル・ピアノの特性を持って、譜面を見ると、あぁだからこういう風にスラーが書いてあったのか、なんて思います。特にショパンの場合、普通のメロディに対して魅力的な対旋律があるのですが、それをどのように浮かび上がらせるのかというのは、その当時の楽器を触ることによって発見することがあって。でも、今私が演奏するのは現代の楽器で、ホールも現代の大きなコンサートホールです。現代のピアノで昔のピアノを真似して弾くのではなくて、その当時のオリジナル楽器で得たさまざまなアイデアを、どうやって現代の楽器で今のホールでの演奏に変換するかというのはとても考えます。そのためにもショパンの音楽の言葉遣いを知ることができるオリジナル楽器はとても有効だと思います。

**―どんな音がするんでしょうか。**

すごく素敵です。これこそショパンだ、と思うぐらい。この繊細で絹糸のような音を好きだったのよね、ショパンは、と。だからショパンは、現代のピアノの力強い音を聞いたら腰を抜かしてしまうかもしれない。今回最後に「英雄ポロネーズ」を弾きますけれども、「英雄ポロネーズ」というと、元気をもらえるような、さあ頑張ろうっていう気持ちになる曲なのですが、この曲でさえ、本当はこうであれば良かったのに…と、現在進行形で頑張ろうっていうような曲では無かったのではないかという気がしています。特に晩年の作品たちは、ショパンは祖国に帰れ無かっただけではなくて帰らなかったところもあるので、それで、お父さんも友人たちも亡くなり、自分も健康を害してもう二度と帰れないであろうというときの、忸怩たる思いがあるかもしれない。ショパンは最後、自分の人生を肯定して亡くなることができなかったのでは無いか、とも最近思うようになりました。だから「英雄ポロネーズ」も、元気一辺倒のものでは無いと思うのです。そんなところも含めて勇気をもらうのかなと。つらさや苦しさ、悲しみがあるから、人って共感できるのかなと思います、特にショパンを見ていると。

**―そんなさまざまな思いを持って、今までショパンの作品に取り組まれてきたかと思うんですけども、ショパンの作品に出会われたのはいつだったんでしょうか。**

中学生のころアメリカで聴いたホロヴィッツの公演の後半が全部ショパンだったのね。それは印象に残っています。

**―仲道さんご自身が演奏されたショパン作品のなかで思い出深いものはありますか。**

若いころ日本フィルハーモニー交響楽団と小林研一郎さんとヨーロッパツアーをしたとき、ウィーンのムジークフェラインで協奏曲の1番を弾きまして、そのときは感動しました。ムジークフェラインの歴史ある舞台と、その響きと、すごく記憶に残っています。

**―最後に音楽を愛するすべての皆様にメッセージをお願いいたします。**

コロナ禍になって最初の半年くらいコンサートが無くなりました。その後、舞台に立って音を出したときに、あぁ音楽というのは空気が震えることなんだと思ったんです。その空気の震えを受け止められるお客様がそこにいらっしゃる。そしてその空気の震えは、耳だけではなくて、皮膚とか、全身の感覚で受け止められている。全身で感じた、その音が心を震わせるということは驚異的なことだなぁと改めて思いました。音楽で心が震えるという素敵な体験を、多くの方に味わってみていただきたいなと思います。

ローム ミュージック チャンネル
# 「Kyoto × Classics」

ローム ミュージック チャンネルはこちら

クラシック専門ストリーミングサービス「カーテンコール」にてローム ミュージック ファンデーション専用チャンネルとして開設している「ローム ミュージック チャンネル」では、主催するさまざまなコンサートをライブ配信やアーカイブ配信でお届けしています。
最新の映像をご紹介します。

## トーク&コンサート
## 黒川侑×久末航 ラヴェルへのオマージュ

収録日：2021年12月10日(金)
出　演：● ヴァイオリン／黒川 侑(ローム ミュージック ファンデーション2016、2017年度奨学生)
● ピアノ／久末 航(ローム ミュージック ファンデーション2018、2019年度奨学生)
● 司会／田添 菜穂子
曲　目：M.ラヴェル作曲
● ハバネラ形式の小品
● ツィガーヌ(演奏会用狂詩曲)
● ヴァイオリン・ソナタ ト長調

アーカイブ配信中

## トーク&コンサート
## 中桐望 ショパンと辿るポーランドへの想い

収録日：2021年12月11日(土)
出　演：● ピアノ／中桐 望(ローム ミュージック ファンデーション2014、2015年度奨学生、京都・国際音楽学生フェスティバル2010出演者)
● 司会／田添 菜穂子
曲　目：F.ショパン作曲
● ワルツ 第1番 変ホ長調 Op.18「華麗なる大円舞曲」
● 練習曲 第5番 変ト長調 Op.10-5「黒鍵」
● 練習曲 第12番 ハ短調 Op.10-12「革命」
● ピアノ協奏曲 第2番 ヘ短調 Op.21 より 第2楽章 ラルゲット
● アンダンテ・スピアナートと華麗なる大ポロネーズ Op.22

アーカイブ配信中

## トーク&コンサート
## 務川慧悟の仏蘭西日記

収録日：2022年1月7日(金)
出　演：● ピアノ／務川　慧悟(ローム ミュージック ファンデーション2015、2016年度奨学生)
● 司会／朝岡　聡
曲　目：C.ドビュッシー／前奏曲集 第2集 第6曲「風変わりなラヴィーヌ将軍」
E.サティ／ピカデリー
W.A.モーツァルト／ピアノ・ソナタ 第8番 イ短調 K.310より第1楽章
F.ショパン／バラード 第4番 ヘ短調 Op.52
M.ラヴェル／夜のガスパール

アーカイブ配信中

## その他、過去の配信映像もアーカイブ配信中!

### トーク&コンサート

成田達輝×田村響 名曲の調べ

### 京都の名所でローム ミュージック フレンズが演奏する Kyoto×Classics

中木健二、佐藤晴真（常寂光寺）

日高志野（元離宮二条城）

今後もさまざまなコンサートをお届けしますのでぜひご注目ください。

ローム クラシック スペシャル

## コバケン・ワールド Vol.29

2004年から「コバケン・ガラ」というタイトルで始まった、指揮者の小林研一郎さん自ら楽しく分かりやすくナビゲートし、指揮をするという人気のシリーズ「コバケン・ワールド」。
ロームは、この「コバケン・ガラ」／「コバケン・ワールド」シリーズへの支援を第1回から継続的に16年間、実施しています。

Vo.29　2021/11/14

ソリストに小学生ヴァイオリニスト吉村妃鞠さんを迎え、チャイコフスキーの協奏曲をお送りしました。公演の後半は、オルガンの入った壮大な交響曲をお楽しみいただき、会場は大きな拍手に包まれました。

### 次回予告　2022年度も開催!　コバケン・ワールド Vol.31～33

| | | | |
|---|---|---|---|
| Vol.31 | 2022.6/5(日) | 東京芸術劇場 | 出演:千住 真理子(ヴァイオリン) 他 |
| Vol.32 | 2022.11/3(木・祝) | サントリーホール | 出演：宮田大(チェロ) 他 |
| Vol.33 | 2023.3/26(日) | サントリーホール | 出演:堤剛(チェロ) 他 |

新国立劇場

## 高校生のためのオペラ鑑賞教室2021

若い世代に、優れたオペラを鑑賞する機会を通して芸術文化の素晴らしさを伝えるため、新国立劇場にて1998年からスタートしたこの鑑賞教室。2008年からは関西でも開催し、2016年からはロームシアター京都で開催されています。
音楽文化の普及と発展には、優秀な音楽家の育成とともに音楽ファンの拡大も重要との考えから、ローム株式会社は1999年から、ローム ミュージック ファンデーションは2008年から毎年継続的にこの活動を支援しています。
新型コロナウイルス感染症の影響により芸術に触れる機会も少なくなっている高校生たちへ、本物のオペラに触れる機会をつくることができました。

2021.7/9、10、13、14
新国立劇場オペラ劇場 オペラ「カルメン」(全3幕/フランス語上演/字幕付き)

2021.10/26、27
ロームシアター京都メインホール オペラ「ドン・パスクワーレ」(全3幕/イタリア語上演/字幕付き)

提供:新国立劇場、撮影:寺司正彦

### Voice　鑑賞した高校生の声　アンケートより

- 一人の人間からあれほどの大きくて通る声が出るのだなと思い、感動しました。
- とても素晴らしく、次の日にまで余韻が残りました。
- あの感動は生涯忘れないと思います。

ローム ミュージック フレンズからの

# お便り

*The letter from rohm music friends*

ローム ミュージック フレンズから届いたご活躍の様子を一部ご紹介します。(順不同)

氏名［専攻］ 援助年度　給付時の在籍学校

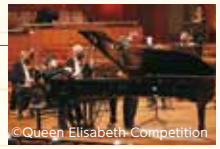
## パリ。

務川（むかわ） 慧悟（けいご）［ピアノ］ 2015、2016年度奨学生

パリ国立高等音楽院

©HIPC

パリに留学しはじめてから8年が経ってしまいました。今でも半ば学生として、学校にも通い続けているのですが、また同時にこちらで演奏させていただく機会も増えてきて、次第にアーティストとして認識されるようになってきたことが、なんだか感慨深いです。2021年5月にはベルギー・ブリュッセルで行われたエリザベート王妃国際音楽コンクールに出場し第3位を受賞しました。そこではあまりにたくさんのことを感じ、またたくさんの思い出ができましたし、またこの受賞は自分の活動の幅を大きく広げてくれ、とても嬉しい。日本でももちろんですが日本外でも、まだまだ、たくさんの"野心"を持って多くのことを貪欲に学びたいですし、またたくさんの音楽を発信してゆきたいです。


©Queen Elisabeth Competition

コンクール二次予選（指揮は、なんと僕のピアノの先生なのです…）

8年も通い続けている学校にて

## 京都市交響楽団コンサートマスターとして

泉原（いずはら） 隆志（たかし）［ヴァイオリン］ 2003年度奨学生

ハンブルグ国立音楽大学

20代で京都市交響楽団のコンサートマスターに就任して早いもので12年が経ちました。最近の出来事としては、2021年11月には首席客演指揮者であるジョン・アクセルロッドさん指揮のもと、R.シュトラウスの『英雄の生涯』を演奏しました。この曲はコンサートマスター人生のなかで何回も演奏できるものでは無く、コンサートマスターソロのレパートリーとして欠かせない曲です。以前にも下野竜也さん指揮のもと、ロームシアター京都にて演奏しましたが、音楽的なフィーリングの合う指揮者との共演は楽しく、忘れられない演奏会となりました。貴重な経験ができることを幸せに思います。3月には沼尻竜典さん指揮のもと、毎年びわ湖ホールで行われているオペラプロジェクトにてワーグナーの5時間にも及ぶオペラ「パルジファル」を演奏します。素晴らしい演奏家たちとの出会いを大事に、いろいろなことを経験して、より良い音楽を追求し日々精進してまいります。

©京都市交響楽団

2021年11月、京都市交響楽団定期演奏会での『英雄の生涯』ソロの様子

©京都市交響楽団

2021年11月、京都市交響楽団定期演奏会での『英雄の生涯』演奏直後

## ジュネーヴ国際音楽コンクール

上野（うえの） 通明（みちあき）［チェロ］ 2014、2015年度奨学生

ロベルト・シューマン・デュッセルドルフ音楽大学・エリザベート王妃音楽院

2021年秋、ヨーロッパで権威のあるスイスのジュネーヴ国際音楽コンクールチェロ部門で日本人初の優勝となりました!いつも応援してくださる皆様のお陰と感謝の気持ちでいっぱいです! 以来経験したことの無い様な毎日を過ごし演奏する喜びを全身で感じています。今後はバッハの録音やTshotシリーズなどのCD、日本のコンサートやヨーロッパのツアー、コンチェルト等さまざまなチャンスに心から感謝し、これからも立ち止まることなく進化し続けていける様、さらに気を引き締めて精進してゆきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします!

©Anne-Laure Lechat

コンクール本選ールトスワフスキチェロ協奏曲

## 音楽への愛情と喜びをかみしめて

岡本（おかもと） 麻子（まこ）［ピアノ］ 2003、2004年度奨学生

ケルン国立音楽大学

ここ数年は出産を経て育児をしながら、演奏家として、また指導者として活動しています。育児休暇が明けてコロナ禍の前には世界的な奏者とともに「メシアン作曲:世の終わりのための四重奏曲」を中心としたプログラムで全国ツアーやテレビ出演などがありました。コロナ禍がはじまり、音楽界は模索しながらの演奏会の実現が多くなりましたが、その後リサイタルやショパンを中心としたプログラムで本番を重ね、また音楽への愛情と演奏する喜びを感じられています。2021年末には子どものためのバロック～バッハ作品のCD録音を終えて、近日リリース予定です。

上／メシアン作品の室内楽演奏会後、高校の恩師の野本由紀夫さんとともに
下／バロック作品のCDレコーディング後にスタッフの皆様とともに

## 一期一会～室内楽の醍醐味～

中木（なかぎ） 健二（けんじ）［チェロ］ 2006～2009年度奨学生

パリ国立高等音楽院、ベルン総合芸術大学

©塩澤秀樹

帰国して8年が経ち、さまざまな舞台で多くの演奏家と室内楽を共演する機会を得られるようになりました。自分自身で楽曲の意味や魅力を紐解き、音にしていく作業は責任あるものですが、なかでも室内楽の舞台では共演者と同じ感覚を共有し、またパートナーの素晴らしい音色や演奏スタイルから多くを学ぶことができる点で、とても有意義に感じます。2021年はチェロアンサンブルや室内楽の公演で多くの刺激的な出会いに恵まれました。公演の度に発見があり、これらを活かしてコンチェルトや無伴奏においても室内楽的なアプローチによって雄弁に音楽で語れるようになることが今の目標です。なにより、そういった視線で楽曲を見直すことは何にも代え難いほど楽しい時間です。

東京芸術大学チェロアンサンブル～The Cello～公演終演後

愛知県岡崎市シビックセンターレジデントアンサンブル・アンサンブル天下統一公演。ピアニストのP.ドヴァイヨンさんとともに

## ウィーンで研鑽した大切な曲を収録して

すずき　まなみ
**鈴木 愛美**［ソプラノ］　2010～2012年度奨学生
ウィーン国立音楽大学大学院

近年、初のソロアルバム「ウィーンわが夢の街」(オクタヴィアレコード)をリリースし、ウィーンで研鑽した歌曲からオペラなど、大切に歌ってきた16曲を収録し、同時に記念リサイタルも開催しました。その後、突然のコロナ禍となり、一時演奏会は中止を余儀なくされましたが、少しずつ演奏会出演の再開と、2021年からは新潟大学音楽科准教授として、未来に羽ばたく学生たちに、一層音楽の輪を広げていってほしい思いを胸に、教育活動にも励んでいます。

上／初のソロアルバム
［ウィーンわが夢の街］
下／CDリリース記念　鈴木愛美
ソプラノリサイタルの様子

## ギターの三大コンクールでの最高位

さいとう　ゆうき
**齋藤 優貴**［クラシックギター］　2020、2021年度奨学生
フランツ・リスト・ワイマール音楽大学

2021年9月にイタリアで行われたミケーレ・ピッタルーガ国際ギターコンクールにおいて第2位(1位無し)を受賞しました。このコンクールはギターの三大コンクールのうちの1つとされており、日本人としては1993年以来となる三大コンクールでの最高位受賞となりました。コロナ禍にも関わらず、ファイナルではオーケストラとコンチェルトを演奏することができ、結果以上に多くを学ぶことができました。

上／表彰式(入賞者や審査員、関係者などと)
下／ファイナルでの演奏風景
※コンクール公式ページより引用

## Youtubeは難しい!?

たなか　まさや
**田中 正也**［ピアノ］　2003～2005年度奨学生
チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院

国内だけでなく近年はロシアでの活動が充実しており、モスクワ音楽院大ホールやエルミタージュ劇場、極東ウラジオストクフィルハーモニー大ホールに招へいされ演奏会をしました。コロナ禍以降は新たな活動形式を模索。リモートでの演奏会や講座、Youtubeにもトライしました。なかでも自分的には大きな挑戦だったYoutubeはロシア語での詩の朗読も入れた渾身の演奏動画で「会心の出来!」と思っていたら友人から「とてもシュールだね!ウケ狙い?」と大笑いされてしまい、ショックで継続断念。やはり生の演奏活動の方が向いているようです。2月には2年ぶりのロシアでの音楽祭への出演、春にはカーネギーホールでの演奏も控えています。今まで以上に一つ一つの本番の尊さを噛みしめながらこれからも精進してまいります。

©Kazuya Akashi

上／モスクワ音楽院大ホールにて
プロコフィエフ作曲のピアノ
協奏曲第3番を演奏
下／宗次ホール年始の恒例行事
佐藤卓史さんとのウルトラ・
ピアノデュオ

## すべてが心の栄養となるように

ますもと　りゅうじ
**増本 竜士**［フルート］　2005～2008年度奨学生
ジュネーブ音楽院・パリ市立音楽院・ストラスブール音楽院

世相が落ち着かない昨今ではありますが、音楽芸術においての調和を希求するオーケストラでの演奏活動にピッコロや現代音楽などを含めた新しい演奏レパートリーの拡大を探り、一方では普遍的な美をそれぞれが学びと鍛錬とで追求することを念頭に置いた教育活動と、両分野に努力を続けています。
そのなかではロームミュージックフレンドとの共演や出会いがあり、さまざまな演奏機会として新たな縁へのつながりがありました。更なる飛躍を求めてこれからも頑張りたいものです。

上／ジュネーブ音楽院での同級生
フルーティスト セバスチャン
ジャコーさんとオーケストラ
本番での舞台裏で
下／ミュージカルガラコンサート
編成オーケストラメンバーでの
リハーサル時

## 日本音楽コンクールを通して成長したこと

たに　あきと
**谷 昂登**［ピアノ］　2021年度奨学生
桐朋女子高等学校 音楽科(男女共学)

©井村重人

2021年10月に開催されました第90回日本音楽コンクールにて第1位をいただくことができました。幼少期から憧れていた舞台で演奏することができ、大変嬉しく貴重な経験となりました。2021年は初めての室内楽の経験もあり、常に他楽器のやっていることをくみ取り、そこから個性がぶつかりあうことで生まれる音楽を体感しました。それを自分の演奏へ活かした成果が出たのではないかと思います。これからも一つ一つの曲に真摯に向きあい精進してまいりたいと思います。

上／北九州「まるっとenjoy!!」での
初めての室内楽の様子
下／第90回日本音楽コンクール
本選会での様子

## コロナとの共生を探って

とみおか　あきこ
**富岡 明子**［メゾ・ソプラノ］　2006、2007年度奨学生
イタリア国立パルマ音楽院

2021年は新国立劇場「イオランタ」にはじまり、「コジ・ファン・トゥッテ」、「ヘンゼルとグレーテル」と、私にとってはオペラの年となりました。コロナ禍によりどの現場でも、ディスタンスをとった演出、マスクをつけての歌唱、何度も行われる抗原検査など、オペラを取り巻く環境は一変しましたが、制約の多いなかで力を合わせて舞台をつくり上げ、そしてお客様に喜んでいただけたときの喜びは、コロナ以前に勝るとも劣らないものがありました。

左／東京文化会館オペラBOX
「ヘンゼルとグレーテル」
ヘンゼル役
右／東京都交響楽団「第九」にて
指揮の大野和士さんと

ローム ミュージック ファンデーション ブログ

# 奨学生レポートより

かめい　まさや
亀井 聖矢［ピアノ］
2020、2021年度奨学生
桐朋学園大学

京都コンサートホールでのリサイタル

服部百音さんとのクリスマスコンサート

2021年は、さまざまな経験を通して自分の地盤を固めていくことができた1年だったと感じています。延期されたショパン国際ピアノコンクールが開催された年でしたが、ソロでは12月下旬にオールショパンリサイタルを国内4ヵ所で開催しました。テクニックや勢いで持っていける作曲家では無いため、過去のショパンコンクール入賞者などの演奏を隅々まで聴きあさり、詳細まで自分の表現したい音色、解釈を考える作業を行いました。

また2021年は、ソロだけではなくアンサンブルやコンチェルトなどの機会もいろいろといただくことができた1年でした。同じくローム ミュージック ファンデーションの奨学生である服部百音さんとは、何度もデュオで共演させていただきました。繊細につくり込まれた息の長いフレージング、退廃的な音色から幸福に満ちた音色まで幅の広い表現など、近くで同年代の素晴らしい演奏家の音を浴びて自分もそれに呼応していく経験は、本当にたくさんの刺激をもらうことができました。

その他にとても貴重な経験になったと感じているのは、ピアノコンチェルトとしてではなくオーケストラのなかのピアノとして出演させていただいた、2021年11月の新日本フィルハーモニー交響楽団第638回定期演奏会での「ストラヴィンスキー/ペトルーシュカ」の演奏です。さまざまな楽器との対話、それが客席に届くときの音色の融合具合を考えながら、普段聴くことの無い位置でオーケストラのサウンドに囲まれる経験は、自分の作曲の勉強においても大きな意味を持つステージでした。

このようにさまざまな機会に挑戦していくにあたり、学校外でもたくさんのレッスンを受けたり、海外の著名な先生方のレッスンを積極的に受講できた1年でもありました。数々の貴重なレッスンを受けるなかで、作曲家の背景に考えを巡らせたり、書かれているすべての1音1音、さらには音と音の間の響かせ方までしっかりとつくり込み、それができたうえでようやく自分が表現したいものや個性を出していくことができるんだ、という考え方を得ることができました。2022年は本格的に海外に目を向け、国際コンクールにも挑戦していきたいと思っていますので、もっともっと努力を重ね、高みを目指して精進してまいります。

みむら　りさ
三村 梨紗［トランペット］
2020、2021年度奨学生
ハンブルグ音楽大学

クリスマスCDアルバムの録音後

Verdiのレクイエムのリハーサル風景

エレクトラのリハーサル

ドイツ・ハンブルク音楽演劇大学でトランペットを学び始めて1年が経ち、修士期間も折り返し地点を迎えました。

ドイツ・ハンブルクに到着した2日後の2020年11月1日、ドイツ全土で再びロックダウンが始まりました。はじめての土地で分からないことばかりでしたが、周りの方々に大変お世話になり、どうにか身の回りの生活必需品をそろえて、慣れない一人暮らし、自炊生活をスタートさせました。ロックダウン期間中はさまざまな演奏会やイベントが次々に中止となり、ドイツにトランペットを勉強しにきたのにも関わらず、制限が続く生活に、つらいときもありました。そのような状況下でも、私の教授であるMatthias Höfs先生は私たち学生に多くの演奏の機会と経験を与えてくださいました。大学ではオンライン授業がメインのなか、ありがたいことに週に1度の個人レッスンは対面で行われました。コンサートや演奏録音はPCR検査を参加者全員が受け、陰性を確認したうえで、いくつか開催することができました。そのなかのひとつが、2020年12月に始まったクリスマスCDアルバムの制作です。クリスマスにちなんだ楽曲や、このCDのために委嘱された新曲などを盛り込んだ教授のアルバムに、私もトランペットアンサンブルメンバーとして参加させていただいています。とても嬉しかったです。（2021年11月5日にリリースされました）

2021年7月に行われた修士の中間試験では最高点10をいただくことができました。これからもどんなときでも諦めずに一歩一歩頑張っていきたいです。

2021年の夏はコンサートのために日本に一時帰国しました。コロナ禍にも関わらず感染防止対策をしてお越しくださったお客様、コンサート開催のためにご尽力くださった関係者の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ハンブルクに戻り、今は忙しく充実した日々が続いています。修士2年目が始まった10月、学内メンバーでMeppenという街に遠征してアンサンブルコンサートを、そしてハンブルク最大の教会St.Michaelisで、Verdiのレクイエムの本番がありました。どちらも素晴らしいクラスメイトとともに練習を重ね、最高の演奏ができたと思います。2021年11月～12月、ハンブルク州立歌劇場の本番にはじめて出演することが決まりました。曲目はシュトラウス作曲の『エレクトラ』です。オペラに参加させていただくのは2018年の小澤征爾音楽塾以来で、久しぶりのオーケストラピットにワクワクしています。公演最終日の舞台はテレビで放送されるそうで、今から緊張していますが素晴らしい作品を演奏できる機会をいただいたことに感謝をして、一生懸命頑張ります。今、ドイツでは新型コロナウイルスが猛威を振るっています。感染状況は極めて深刻ですが、感染予防と体調管理をしっかりして、日々支えてくださっている方々への感謝を忘れずに、もっともっと意欲的に学んでいきたいと思っています。

しみず　ゆうま
**清水 勇磨** [バリトン]
2020、2021年度奨学生
ADADSオペラ芸術学校

タンホイザー

ファルスタッフ

写真提供:公益財団法人東京二期会

2021年度は、2020年までのボローニャ歌劇場付設オペラ研修所を修了し、ADADSオペラ芸術学校へと学びの場を移しました。今まで続けてきたレパートリーの研究と新たなレパートリーの拡大、またドラマトゥルギーについての研究をいたしております。それと並行いたしまして、日本におきましては、オペラを中心とし、コンサートなどへも出演をしておりました。2021年2月におきましては、東京文化会館にて、東京二期会のワーグナー作曲「タンホイザー」ヴォルフラム役で出演いたしました。特に印象深かったことといたしましては、マエストロのセバスティアン・ヴァイグレさんの音楽づくり、さらにはキース・ウォーナーさんの演出も、物語を分かりやすく、また深く見せることにこだわっているものでした。特に、演出補のドロテア・キルシュバウムさんには、稽古において本当に多くの話し合いの機会を持っていただき、演出意図を深く理解すること、また、話し合いにも十分に応じていただき、相互理解を通しての作品をつくり上げるということを大切にしていただいたように感じます。音楽とドラマトゥルギーの連携は、オペラにおいては観客に対して作品を提示するのに欠くことのできない重要な要素と言えます。その意味において非常に丁寧なつくり方ができたのではないかと感じております。
また、2021年7月にも東京文化会館において、東京二期会ヴェルディ作曲「ファルスタッフ」フォード役にて出演させていただきました。こちらの作品は、演出がロラン・ペリーさんによるもので、台本にとても忠実に計算されていたように思っております。オペラにおける物語の意味を伝えていこうという考え方は、日本での公演だからということではなく、元々このプロダクションが目指していました、言葉が持っている内容を掘り下げていくことは、イタリアにおいても実践されていることで、色をつけていくように言葉の扱い方、歌唱の仕方を構築していくことは、歌唱に説得力を増していくうえで欠くことはできません。
その意味において非常に納得がいく演出の仕方であったように思います。演出補のクリスティアン・レートさんにおいては、いろいろなことを話しあい、細かくついた演出の指示の意味を、また、お互いが考えている言葉に対するニュアンスを何度も話しあいました。その意味におきまして、さまざまな役柄との会話に内容が非常に明確になったように感じ、稽古は連日長時間に及びましたが、日を追うごとに演出内容に納得がいき、稽古を重ねることができました。
また、マエストロのレオナルド・シーニさんともよく話し合いができ、音楽づくりについて、またいろいろな可能性について実践しながら稽古を進めることができたように思います。
その後もコンサートなどにも出演させていただきましたが、イタリアでの重要な研修期間をお支えいただきましたことが、私にとって音楽的な基礎を築かせていただくきっかけになったように思います。譜読みの段階から音楽への向き合い方は決まっていると言っても過言ではありません。ボローニャ歌劇場付設オペラ研修所においては、上記のタンホイザーはクリス・メリットさんやルーチョ・ガッロさんにご指導いただきましたし、合わせてファルスタッフはルチアーナ・ディンティーノさんやマルツィオ・ジョッシさん、他の方々にも聞いていただきました。さまざまな経験が演奏家としての将来をつくっていくことになると実感しております。真摯に音楽と向きあい、常に疑問を持ちながら引き続きオペラ作品と向きあっていきたいと考えております。

さやま　ゆうき
**佐山 祐樹** [チェロ]
2021年度奨学生
桐朋学園大学

チェロと飛行機に乗る様子

桐朋学園大学のソリストディプロマコース3年生として学んでおりますが桐朋学園に通うのも今年で10年目となりました。最近は室内楽のコンサートやオーケストラのコンサートがとても多く、日々譜読みとスコアを読むことに追われています。新型コロナウイルス感染症の影響でコンサートが中止になりはじめてから1年半が経ちますが、最近は東京以外の地方での公演も多く国内のいろいろなところに行く機会も増えました。2020年の今ごろからはとても考えられないことだったので音楽業界も少しずつではありますが前の姿に戻りつつあることを実感しております。
2021年の夏は2年ぶり2回目となるローム ミュージック セミナーに参加しました。講師の宮田大先生のレッスンを5日間毎日受けることができ第一線で活躍されている宮田先生の音楽を肌で感じることができました。レッスンを受けたなかで一番印象に残っているのは「make musicではなくfeel music」という言葉です。事前にこう弾くと決めたものを演奏会で演奏するのではなく、舞台上で感じたものを感じたままに弾いてみてということでした。それにはさまざまな感情を持つことが大事で、「嬉しい」という言葉があった場合、その嬉しいという言葉の伝え方を何通りも持つことが大事だと教わることができました。
先日はオーケストラの演奏会で岡山と高知に行きました。大好きな作曲家でもあるチャイコフスキーの交響曲第5番を演奏しましたが、バレエ音楽も大好きなので弾いていてそれらを思わせるような旋律と楽曲構成にとても胸が高まりました。また、私は「飛行機に乗ること・撮ること」と「旅行」が趣味なので地方への演奏旅行はとても楽しいものとなりました。高知へははじめて行きましたが自然豊かなところで日々の疲れを取ることもできました。行ったことのない場所に行きその場の空気を感じることは、自分のイメージの幅を増やすことができ、それが自分の音楽にもつながると思っています。飛行機が好きと先ほど書きましたが、高知からの帰りはもちろん飛行機でした(笑)余談ですが飛行機にチェロを乗せるときはチェロ用に1席購入をしてシートベルトをして乗せる必要があります。
今後はゲスト首席として客演するオーケストラの演奏会や尊敬する演奏家の皆さんとの室内楽の演奏会が続きます。1回1回の演奏会で得たことを次の演奏会に活かせるよう日々精進していきたいと思います。

ローム ミュージック ファンデーション ブログでも、
現役奨学生からのレポートや財団の事業の紹介などを掲載しています。
https://micro.rohm.com/jp/rmf/blog/

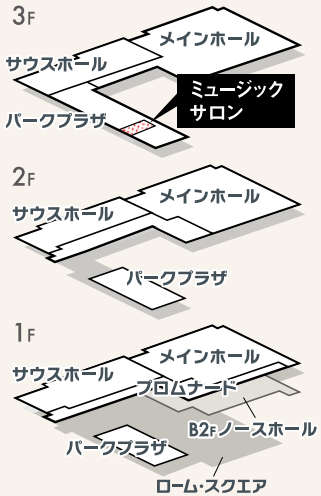
## ロームシアター京都 ミュージックサロン

ロームシアター京都の開館と同日である2016年1月10日にオープンしたミュージックサロン。音楽とさまざまな形で触れあうことができる施設として各種イベントを開催し、これまでに多くのお客様にご来場いただいています。

### ■「ミュージックサロン」施設概要

場　　所：ロームシアター京都　パークプラザ3階東側
面　　積：約96㎡
定　休　日：臨時休館日を除き年中無休
営 業 時 間：10:00～19:00
※定休日や営業時間は新型コロナウイルス感染症のため変更している可能性がございます。
利 用 料 等：無料、原則出入り自由(一部整理券が必要な場合あり)
主 要 設 備：7.1chサラウンドシステム、120インチスクリーン プロジェクター、演奏スペースなど
主な開催内容：コンサートなどの映像・音源の放映、イベント(コンサート、セミナー、資料展示等)の開催

ロームシアター京都 館内マップ



©上田祐勢

過去のイベントの様子(2019年度スカラシップ展より)

## ROHM CLASSIC SPECIAL オペラの扉 2021 ～オペラで巡る世界の旅～

新国立劇場が制作した名作オペラたっぷり20作品以上を、その舞台となった国ごとにまとめ、舞台写真や各土地の風景写真とともにご紹介しました。また、貴重な本物の舞台衣装や装置模型とともにダイジェスト映像も放映し、オペラの世界を楽しんでいただきました。

- 開催期間：2021年9月14日(火)～2021年12月5日(日)
- 場所：ロームシアター京都 ミュージックサロン、1階プロムナード
- 主催：公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
- 共催：公益財団法人新国立劇場運営財団、ローム株式会社
- 展示デザイン：株式会社NAIZ Planning

オペラの扉
特設WEBサイトは
こちら

## ROHM CLASSIC SPECIAL 小澤征爾音楽塾展2022

20年以上にわたる小澤征爾音楽塾の歩みを振り返りながら、喜歌劇「こうもり」の見どころを、オーケストラ・ピットに登場する実物楽器の展示や過去映像とともにご紹介しました。

- 開催期間:2022年1月21日(金)～2022年3月20日(日)
- 場所:ロームシアター京都 ミュージックサロン、1階プロムナード
- 主催:公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団、
  公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
- 共催:ローム株式会社
- 協力:株式会社ヴェローザ・ジャパン、デビアレ株式会社

小澤征爾音楽塾展
特設WEBサイトはこちら

## ローム株式会社 動画企画

ローム株式会社では、2020年度よりローム ミュージック ファンデーション奨学生による動画配信企画を行ってきました。この企画は、奨学生が撮影した音楽に関する解説・演奏動画をSNSにて継続的に配信し、聴衆の拡大を目指していく企画で、総再生数は6万回以上になるなど好評を頂いています。

### 2021年度 動画配信企画に参加した奨学生

吉本 梨乃 [ヴァイオリン]

野上 真梨子 [ピアノ]

有冨 萌々子 [ヴィオラ]

秋山 紗穂 [ピアノ]

松島 理紗 [ソプラノ]

香月 麗 [チェロ]

山本 明尚 [音楽学]

佐藤 元洋 [ピアノ]

山下 愛陽 [クラシックギター]

太田 糸音 [ピアノ]

藤田 真央 [ピアノ]

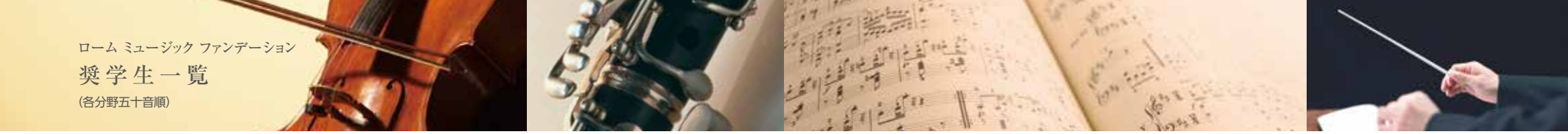
向井 響 [作曲]

阪田 知樹 [ピアノ]

齋藤 優貴 [クラシックギター]

三村 梨紗 [トランペット]

解説・演奏動画はこちら
ローム株式会社 Facebook



ローム ミュージック ファンデーション

# 奨学生一覧

(各分野五十音順)

### ヴァイオリン／112人
青木 尚佳
青谷 友香里
アシュリー マリア アヤ
東 珠子
荒井 優利奈
安彦 千恵
伊賀 あや
石橋 幸子
石原 悠企
泉原 隆志
礒 絵里子
糸井 真紀
伊藤 文乃
井上 奈央子
上野 明子
植村 太郎
植村 菜穂
植村 理葉
牛草 春
エリック・シューマン
尾池 亜美
王 中男
大江 馨
大岡 仁
大島 莉紗
大関 万結
大谷 玲子
岡崎 慶輔
岡本 誠司
小川 恭子
小野 明子
樫本 大進
加野 景子
神尾 真由子
神谷 未穂
川村 奈菜
木嶋 真優
岸本 萌乃加
北川 千紗
橘和 美優
城戸 かれん
木村 悦子
清永 あや
日下 紗矢子
倉冨 亮太
黒川 侑
郷古 廉
小林 壱成
小林 美緒
小林 美樹
佐橋 まどか
佐々木 つくし
佐藤 久成
篠原 悠那
志満 直美
島田 真千子
島原 早恵
清水 有紀
白井 麻友
菅井 京子
鈴木 愛理
鈴木 舞
周防 亮介
髙木 凜々子
滝 千春
瀧村 依里
田島 悠子
立上 舞
田中 晶子
田中 晶子
谷本 華子
玉井 菜採
千葉 水晶
辻 彩奈
坪井 夏美
東條 太河
土岐 祐奈
長尾 春花
中島 麻
中村 太地
成田 達輝
西川 茉利奈
西澤 和江
二瓶 真悠
服部 百音
林 悠介
原 麻里亜
原田 亮子
東 亮汰
福田 廉之介
藤江 扶紀
外村 理紗
前田 志乃
正戸 里佳
松川 暉
松田 理奈
三上 亮
村田 美英
毛利 文香
守屋 剛志
森山 まひる
安田 理沙
矢野 玲子
山根 一仁
梁 美沙
弓 新
湯本 亜美
吉江 美桜
吉田 南
吉本 梨乃
米元 響子
渡邉 ゆづき

### ヴィオラ／13人
赤坂 智子
有富 萌々子
大野 若菜
金丸 葉子
坂口 翼
杉田 恵理
瀧本 麻衣子
田原 綾子
中島 悦子
原 麻理子
牧野 葵美
山碕 智子
渡邉 千春

### チェロ／40人
伊東 裕
伊藤 悠貴
上野 通明
植村 葉夏
江口 心一
遠藤 真理
岡本 侑也
奥田 なな子
香月 麗
加藤 文枝
門脇 大樹
上村 文乃
唐沢 安岐奈
熊澤 雅樹
佐々木 繭望
笹沼 樹
佐藤 晴真
佐山 裕樹
髙木 慶太
辻本 玲
鳥羽 咲音
中木 健二
長谷川 彰子
林 裕
櫃本 瑠音
平野 朝水
藤井 泉
藤原 秀章
堀江 牧生
松山 翔子
マーク・シューマン
水野 優也
三井 静
峰本 更
宮田 大
森田 啓佑
山上 ジョアン 薫
山本 徹
横坂 源
渡邊 方子

### クラッシックギター／6人
齋藤 優貴
谷辺 昌央
藤元 高輝
松本 大樹
山下 愛陽
山田 唯雄

### ヴィオラ・ダ・ガンバ／1人
酒井 淳

### フルート／21人
阿部 礼奈
井坂 実樹
石井 希衣
岩瀬 桐子
上野 星矢
大久保 彩子
久保 順
倉田 優
小山 裕幾
庄田 奏美
瀧本 実里
竹山 愛
中村 薫
萩原 貴子
藤井 香織
本宮 湖心
増本 竜士
森岡 有裕子
八木 瑛子
若林 かをり
渡邊 玲奈

### オーボエ／4人
荒 絵理子
岡山 理絵
田代 奏子
本多 啓佑

### クラリネット／10人
梅原 希枝
金子 平
小林 知世
小山 洋子
白子 正樹
辻本 聡子
中川 知美
原田 綾子
福田 さあや
吉田 誠

### サクソフォン／2人
住谷 美帆
中島 諒

### ファゴット／3人
小山 莉絵
中野 陽一朗
藤村 踊子

### トランペット／3人
菊本 和昭
佐藤 友紀
三村 梨紗

### トロンボーン／2人
清水 真弓
山本 浩一郎

### ユーフォニアム／2人
安東 京平
佐藤 采香

### 打楽器／5人
池上 英樹
岩見 玲奈
沓野 勢津子
通崎 睦美
福山 直子

### ハープ／5人
景山 梨乃
シュレイファー 弓子
髙野 麗音
林 千佳世
福井 麻衣

### パイプオルガン／1人
椎名 雄一郎

### チェンバロ／2人
北御門 はる
脇田 英里子

### ピアノ／144人
秋山 紗穂
浅野 未麗
有吉 亮治
五十嵐 薫子
石井 楓子
石川 武蔵
石田 啓明
石村 純
乾 絵美
今井 彩子
今田 篤
入江 一雄
岩本 恵理
梅村 知世
江澤 茂敏
江尻 南美
岡田 奏
大井 浩明
大崎 結真
太田 糸音
大西 真由子
岡本 麻子
奥田 暁仁
奥村 友美
小沢 麻由子
越知 晴子
小野田 有紗
海瀬 京子
開原 由紀乃
梯 剛之
柏原 佳奈
加藤 大樹
加藤 洋之
加野 瑞夏
神野 千恵
亀井 聖矢
河内 仁志
川﨑 翔子
川島 基
川田 健太郎
河村 尚子
菊地 裕介
菊池 洋子
木口 雄人
喜多 宏丞
清塚 信也
日下 知奈
工藤 奈帆美
久保 千尋
倉澤 杏菜
黒岩 航紀
黒田 哲平
桑原 志織
小井土 文哉
高 実希子
壽 千明
小林 愛実
小林 有沙
小林 海都
齊藤 一也
阪田 知樹
坂本 真由美
崎谷 明弘
佐々木 宏子
佐竹 裕介
佐藤 卓史
佐藤 彦大
佐藤 麻理
佐藤 元洋
佐野 まり子
紫垣 英二
志鷹 美紗
釈迦郡 洋介
白川 多紀
進藤 実優
菅野 雅紀
鈴木 謙一郎
住友 郁治
関本 昌平
芹澤 佳司
反田 恭平
高田 匡隆
高橋 礼恵
内匠 慧
田中 香織
田中 正也
谷 昂登
田村 響
千葉 遥一郎
津嶋 啓一
津田 裕也
鶴見 彩
土居 知子
中尾 純
中桐 望
中島 彩
長瀬 賢弘
中元 千鶴
奈良 希愛
新美 光映
沼澤 淑音
野上 真梨子
萩原 麻未
橋本 尚
服部 慶子
花岡 克典
浜野 与志男
林田 麻紀
樋口 一朗
久末 航
日高 志野
平松 悠歩
福田 和子
藤田 真央
古海 行子
真隅 政大
松尾 久美
松岡 淳
松本 和将
丸山 耕路
丸山 凪乃
萬谷 衣里
Elezovic MIA
三浦 友理枝
三戸 あけみ
三宅 麻美
宮下 彩子
宮田 理生
務川 慧悟
村田 理夏子
村松 珠美
森田 義史
矢島 愛子
山田 剛史
山本 亜希子
吉兼 加奈子
ティーテン 吉川 右希子
吉田 友昭
吉武 優
吉見 友貴
米津 真浩
李 早恵
リード 希亜奈
脇岡 洋平

### オルガン／2人
福本 茉莉
宗 かおり

### 声楽／61人
石井 教子
市原 愛
乾 麻里子
上杉 清仁
江口 輝博
大島 京子
岡田 昌子
加藤 史幸
加藤 麻衣
川島 幸子
川原 成子
木下 周子
木下 美穂子
木村 善明
木村 里花子
蔵田 みどり
小玉 晃
小林 沙羅
近藤 圭
崔 宗宝
坂本 知亜紀
志摩 大喜
清水 俊徳
清水 勇磨
周 江平
杉原 かおり
鈴木 愛美
高橋 維
田邊 織恵
谷口 伸
谷村 由美子
田村 麻子
趙 非
津國 直樹
辻 裕久
寺田 功治
田 大成
富岡 明子
中川 恵美里
中嶋 俊晴
中島 康晴
鳴海 真希子
林 佑子
深瀬 廉
藤木 大地
藤谷 佳奈枝
本田 智衣
又吉 秀樹
松島 理紗
松原 友
真野 路津紀
溝渕 悠理
峯島 望美
宮里 直樹
森野 美咲
山下 新吾
山本 美央
吉澤 淳
吉田 貴子
藍 野流
李 恩敬

### 指揮／22人
粟辻 聡
石川 星太郎
伊藤 翔
垣内 悠希
川本 貢司
岸本 有理
鬼原 良尚
齊藤 一郎
阪部 慎太郎
篠崎 靖男
下野 竜也
杉本 優
橘 直貴
田中 祐子
寺岡 清高
阪 哲朗
三ツ橋 敬子
村上 寿昭
村中 大祐
森 香織
森口 真司
森田 宏樹

### 作曲／23人
阿部 俊祐
稲森 安太己
今井 智景
小野田 健太
北爪 裕道
木下 正道
小出 稚子
酒井 健治
坂田 直樹
塚本 瑛子
中川 佐織
中橋 祐紀
夏田 昌和
朴 炳五
松宮 圭太
松本 直祐樹
ママットウメル
向井 響
向井 航
山口 紘
李 大軍
渡邊 愛
渡辺 裕紀子

### 教会音楽／1人
小山田 薫

### 音楽学／18人
金 士友
貞方 マキ子
周 耘
白石 悠里子
菅沼 起一
関本 菜穂子
園田 みどり
高野 裕子
東田 範子
戸祭 哲子
中村 伸子
西村 理
畑野 小百合
早坂 牧子
丸山 瑶子
村田 圭代
山本 明尚
李 金叶

### オペラ演出／4人
井原 広樹
郭 才銀
馬 金泉
森岡 純子

計 507人

(2022年2月現在)

ローム ミュージック フレンズ No.13
―ローム ミュージック ファンデーションの音楽文化支援情報誌―

発行 2022年3月
企画・発行：公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション
〒615-0046 京都市右京区西院西溝崎町44
TEL(075)311-7710 FAX(075)311-0089
https://micro.rohm.com/jp/rmf/
協　　賛：ローム株式会社
この情報誌に掲載の写真・文章の無断転載を禁じます。

2022.3.7K

ミックス
紙 | 責任ある森林管理を支えています
FSC® C022337